

広島県アパレル工業組合

通常総会開催**挨拶される信岡理事長**

去る5月23日(月)午後4時より当組合会館3階大会議室において、広島県アパレル工業組合の平成17年度通常総会が開催されました。

佐藤専務理事の司会で始まり、出席数が法定数を満たし、有効に成立していることを報告した後、信岡理事長が議長に選任され、議案の審議に入りました。

まず、平成16年度事業報告・決算関係書類及び借入金額の最高限度額並びに債務保証金額の最高限度額と賦課金額の基準額等が原案通りいずれも承認・可決された後、平成17年度事業計画及び収支予算案が原案通り承認・可決されました。

次いで、理事1名の補充選任が行われ、(株)コダマコーポレーション社長 松岡 清隆氏が選任され、通常総会は滞りなく終了いたしました。

《信岡理事長の挨拶要旨》

総会終了後、ご来賓の方々の入場の後、信岡理事長が、来賓各位のご臨席に対するお礼を申し述べた後、要旨次のような挨拶をされました。

「日本の経済は、昨年に比べて一層の回復基調が感じられた年であった。大企業の多くは、過去最高の業績を達成し、特にバブル崩壊後、無用の長物のように言われていた“重厚・長大産業”のすばらしい回復は、私どもにとって時代の激しい変化を印象づけた。

しかし、これからの見通しは、特に中国の動向あるいは重油の今後の問題など先行き不透明感がぬぐいきれない状態が続いていると思う。今月の内閣府の景気動向指数の結果発表をみても3ヶ月連続で、一進一退の状態が続き、景気が足ふみ状態にあるとの見方を示している。

一方、当産地の繊維業界においては、中国の人民元の切り上げや輸出税の問題などあるが、なんとといっても安価な輸入品の増大で、常に供給過剰のマーケットの中で苦戦を強いられた年であった。去年は、肝心な時に冷夏あるいは暖冬という異常気象に見舞われ、シーズン商品が大きなダメージを受けている。その上、相次ぐ台風の襲来や地震など自然災害に遭い、散々な年であった。しかし、当産地の主力商品であるユニフォーム業界は、大企業の景気の回復により、買換え需要やモデルチェンジ等により数量の増加が見られ、まずまずの年であったと思われる。」と昨年度を振り返っての挨拶がありました。

《社会の移り変わりに対応した企業戦略を！》

続いて、「国内市場は、ものすごいスピードで変化している。コンビニが100円ショップと同じようなものを扱うことを始めたり、消費者の嗜好の変化、少子高齢化社会が進む中でのニーズの変化など現実の動きを今一度見つめ直し、それぞれの会社が我が身にあった商品開発に努められ、消費者にどう提案し、販売していくか真剣に取り組む必要があると思う。繊維業界で生きていくためには、避けて通れない課題である。」と社会の変化にすばやく対応した企業戦略の必要性について述べられた後、今年度の組合活動に関して次のような発言がありました。

《賦課金の増額にご理解とご協力を》

「今年度から組合の事業収入は、火災共済収入が主となり大幅な収入減になる。そのために総会でご了解していただいたとは言え、経済情勢が大変厳しい中で、賦課金の増額をお願いしなければならなくなり、誠に不本意で申し訳なく思いますが、ご協力をお願いしたい。組合としても他の収益事業の充実や経費節減に一層の努力を行うとともに、少ない職員ではあるが、時宜に適した情報の提供を始めとして組合員の皆様方のニーズにあった組合活動を一生懸命実施していきたい。」と述べられて挨拶を終わりました。

《来賓各位からご懇篤なご祝辞》

続いて来賓の挨拶に移り、平浩介広島県議会議員、三好福山市長(同市経済環境局長羽原敏雄氏が代読)、伊藤吉和府中市長及び酒井正則商工中金福山支店長の4氏からご懇篤なご挨拶がありました。

来賓は他に、池田中国銀行新市支店長、小川広島銀行新市支店次長、竹内両備信用組合新市支店長及び吉岡広島県火災共済協同組合専務理事様のご臨席がありました。

最後に中国銀行池田新市支店長様の乾杯の音頭で懇親会に移り、終始和やかな談笑が続き、山名作太副理事長の中締めの挨拶があり、盛会裡に終了しました。



《総会風景》



平県議会議員



羽原福山市経済環境局長

《来賓の挨拶》



伊藤府中市長



酒井商工中金支店長